



ネルヴァルの作品と『ヒュプネロトマキア・ポリフィリ』(『ポリフィルの夢』)の比較

| | |
|-----|---|
| 著者 | 間瀬 玲子 |
| 雑誌名 | 筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要 |
| 号 | 5 |
| ページ | 81-92 |
| 発行年 | 2010-01-31 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1219/00000136/ |

ネルヴァルの作品と『ヒュブネロトマキア・ポリフィリ』(『ポリフィルの夢』)の比較

間 瀬 玲 子

La comparaison entre les œuvres de Nerval et *Hypnerotomachia Poliphili*
(*Le Songe de Poliphile*)

Reiko MASE

I . 初めに

19世紀の作家ジェラルド・ド・ネルヴァル Gérard de Nerval は『東方紀行』*Voyage en Orient* (1851年増補改訂第三版刊行)などのいくつかの作品において『ヒュブネロトマキア・ポリフィリ』*Hypnerotomachia Poliphili* (仏訳のタイトルは *Le Songe de Poliphile* 『ポリフィルの夢』)を言及した。ネルヴァルは作品中で1499年にヴェネツィアで発行された原典を言及している。しかし研究者たちは何の疑いもなく1546年にパリで発行されたフランス語訳とネルヴァルの作品を比較検討してきた。この点に関しては非常に疑問を感じていた。またネルヴァルが『ポリフィルの夢』を正確に理解できなかったことも不可解な事実だった。近年『ポリフィルの夢』を容易に参照することが可能になったので再検討を試みる考えを持つに至った。本論文ではネルヴァルが原典や1546年版以外のフランス語訳を参照した可能性はないのかを検証することを目的とする。なお本論文で特に記さない限りフランス語訳は1546年版を表すことにする。

II . 『ポリフィルの夢』とは何か？

『ポリフィルの夢』(本来は『ヒュブネロトマキア・ポリフィリ』と表記すべきところだが、本論文では通常使われている『ポリフィルの夢』と表記する)は1499年にイタリアのヴェネツィアにおいてアルド・マヌーツィオ Aldo Manuzio (アルドゥス・マヌティウス Aldus Manutius と表記する場合もある)によって出版された。⁽¹⁾ この書物は木版画が随所に配された美しい書物である。その後1545年にアルド印刷所から第二版が出版された。なお本作品の筆者はフランチェスコ・コロナ Francesco Colonna と表記されているが、異論もあることをここで明記しておく。

『ポリフィルの夢』の研究が困難である最大の要因は使われている言語である。主にイタリア語とラテン語で書かれているとされているが、簡単に解読できるような書物ではない。それから簡単

に入手できるような書物ではなかったことも研究の遅れの原因であったと言える。

日本では澁澤龍彦氏が『胡桃の中の世界』（青土社、1974年）の中で『ポリフィルス狂恋夢』と題する評論を発表している。澁澤氏はこの評論の中で『ポリフィルの夢』を『ポリフィルス狂恋夢』または『狂恋夢』と表記している。『ポリフィルの夢』の概要やネルヴァルの解釈などを非常に要領よくまとめており、現在でも最も示唆に富む評論と言える。ネルヴァルが『ポリフィルの夢』の内容を誤解していたことも鋭く指摘している。なお澁澤氏が参照した1963年発行のフランス書籍クラブ版は残念ながら参照することができなかった。⁽²⁾

『ポリフィルの夢』の内容を一言で言うと、男性主人公ポリフィルが夢の中で森にさまよい、生き物や建築物に遭遇し、恋人ポリアとともにキュテラ島に連れていかれる話である。ポリフィルの夢が醒めて結末となる。

近年は原典及び仏訳、英訳のリプリント版または電子テキストを簡単に入手することができるようになった。また場合によってはフランスの国立図書館に複写を依頼して入手することも可能である。

本論文で参考にした『ポリフィルの夢』の主要な版は以下のとおりである。版の説明は本来注で行うべき事項かもしれないが、そうはいかない理由がある。それは『ポリフィルの夢』の原典、フランス語訳1546年版、ネルヴァルの作品を比較しただけでは序で書いた疑問が全く解決できないからである。

1. イタリア語原典

[書籍]

Francesco Colonna, *Hypnerotomachia Poliphili*, tomo primo, Milano, Adelphi Edizioni, 2004 .

1499年版の復刻版。原典との違いは本書にページが記されていることだけである。

Francesco Colonna, *Hypnerotomachia Poliphili*, tomo secondo, Milano, Adelphi Edizioni, 2004.

イタリア語による序文、現代イタリア語訳、注釈つき。

上記の2巻本の書籍が現時点で唯一入手可能な廉価版である。

[CD-ROM 版]

Francesco Colonna, *Hypnerotomachia Poliphili*, Oakland, California, Octavo, 2004.

論文、参考文献（すべて英語）が収録されている。本物の書籍を写した画像が収録されており、実物がどのような物であったかを想像することができる。

[電子テキスト]

フランス Bibliothèque nationale de France の Gallica <http://www.bnf.fr>

ドイツ Wolfenbütteler Digitale Bibliothek <http://diglib.hab.de>

ドイツ版には表紙の写真が掲載され、縮尺もわかるようになっているので、原典の大きさを想像することが可能である。上記のサイト以外でも電子テキストは入手可能である。

原典はイタリア語、ラテン語、ヘブライ語などを混在させた文章で書かれており、辞書、翻訳サイトなどを駆使しても理解し難い書物である。小さな文字がびっしりと書き込まれており、木版画の美しさだけが際立っている。

2 . フランス語訳1546年版

[複写]

Hypnerotomachie, ou Discours du Songe de Poliphile, Paris, Jacques Kerver, 1546の複写をフランス国立図書館 Bibliothèque nationale de France から入手した。

[サイトで閲覧]

1546年版の電子テキストが <http://architectura.cesr.univ-tours.fr> のサイトで閲覧可能である。

現時点ではフランス国立図書館 Gallica はフランス語訳1546年版の電子テキストを提供していない。このフランス語訳は原典とは全く異なる版画を掲載している。現代フランス語とは異なる綴りで書かれているので読みやすいわけではない。原典とこのフランス語訳の版画のどちらに優位性があるかは議論の分かれるところである。

3 . ルグランによるフランス語自由訳

[電子テキスト]

Francesco Colonna, *Songe de Poliphile*, traduction libre de l'italien par J.G. Legrand, 2vol, Paris, Imprimerie de P. Didot l' aîné, 1804.

カナダ Canadian Libraries <http://www.archive.org>

Google ブックからもダウンロード可能であるが、フランス国立図書館 Gallica には収録されていない。ルグラン自由訳には版画は掲載されていない。

ルグランがフランス語に翻訳した自由訳である。ネルヴァルがこの版を参照して『東方紀行』を執筆したと考える研究者もいる。

4 . ポプランによるフランス語訳

[書籍]

Francesco Colonna, *Le Songe de Poliphile ou Hypnérotomachie*, 2vol, Genève, Slatkine Reprints, 1971 (réimpression de l' édition de Paris, 1883).

この書籍はクロディウス・ポプラン Claudius Popelin が翻訳し、パリの Isidore Liseux イジドール・

リズー社から1883年に出版された本の復刻版である。この書物に掲載された版画は原典とも1546年版フランス語訳とも異なり、プリュネール Prunaire によって新たに描かれたものである。ネルヴァルは1855年に亡くなったので、このポブラン訳は見ていない。後に詳述するがポブラン訳はフランス語訳1546年版に縛られることなく、正確に翻訳をしている。

5．フランス語訳1926年版

[電子テキスト]

Francesco Colonna, *Hypnerotomachie, ou Discours du songe de Poliphile*, traduit de langage italien en français par Jean Martin et Jacques Gohorry, et décoré de dessins de Mantegna, gravés sur bois par Jean Cousin et Jean Goujon, publié par Bertrand Guégan, d'après l'édition Kerver, Paris, Payot, 1926.

本研究の初期の段階で入手した電子テキストである。この版はフランス語訳1546年版の正確な意味での復刻版ではない。木版画は1546年版のものを採用しているが、フランス語の文字をより分かりやすくしている。しかし現代の綴りとは異なっている。

6．現代フランス語訳

[書籍]

Francesco Colonna, *Le Songe de Poliphile*, traduction de l'*Hypnerotomachia Poliphili* par Jean Martin (Paris, Kerver, 1546), présentation, translittération, notes, glossaire et index par Gilles Polizzi, Paris, Imprimerie Nationale, 1994.

本研究において最も役に立ったのは現代フランス語訳である。この翻訳はフランス語訳1546年版を元にした現代フランス語訳である。よって1546年版の誤訳もそのまま踏襲している。

7．英語訳

[電子テキスト]

Francesco Colonna, *Hypnerotomachia*, Amsterdam, Theatrum Orbis Terrarum, 1969.

Canadian Libraries <http://www.archive.org>

この電子テキストの元となる書物は1592年にロンドンで発行された書物である。ネルヴァルが英語訳を参照したという可能性はないと考えている。

8．現代英語訳

[書籍]

Francesco Colonna, *Hypnerotomachia Poliphili, The Strife of Love in a Dream*, The entire text translated for the first time into English with an introduction by Joscelyn Godwin, with the original wood-

cut illustrations, New York, Thames & Hudson, 2005. (ハードカバーは1999年に発行された)

翻訳者のジョスリン・ゴドウィン氏はドイツ出身の学者アタナシウス・キルヒャー Athanasius Kircher の研究者としても非常に有名である。この現代英語訳は1999年に初版が発行された。1499年の原典と同じ木版画が収録されている。本研究の初期の段階でこの書籍を入手した。理解しやすい英語で書かれているので、非常に参考になった。

上記のように原典、フランス語、英語の版が存在する。1499年発行の原典や1546年発行のフランス語訳が理解しやすい書物であるならば、このように多数の版を参照する必要はない。上記の版以外にも雑多な版を参考にした。

Ⅲ．ネルヴァルが『ポリフィルの夢』に言及した箇所

ネルヴァルが『ポリフィルの夢』に言及した箇所は『東方紀行』以外にも数箇所ある。その中で『火の娘たち』(1854) *Les Filles du Feu* に収録された「アンジェリック」*Angélique* の重要な記述を引用したいと考える。

Un jour, il dit à son ami : «Qu' est-ce que tu fais de cet in-16 mal relié... et coupé ? Je te donnerais volontiers le *Voyage de Poliphile* en italien, édition princeps des Aldes, avec les gravures de Belin, pour cet in-16...⁽³⁾

ある日、彼は友人に言った。「この下手な製本で、切り落とされた十六折本をどうするんだ。この十六折本の代わりにイタリア語の『ポリフィルの旅』のアルド初版、ブランの版画の入った本を喜んで君にあげよう...」

ネルヴァルが『ポリフィルの旅』と書いているのはもちろん『ポリフィルの夢』のことである。ネルヴァルが『東方紀行』序章・第14章「ポリフィルの夢」XIV. *Le Songe de Poliphile* でシャルル・ノディエ Charles Nodier の最後の小説『フランシスクス・コルムナ』(1844) *Fransiscus Columna* を言及していることから、「アンジェリック」の上記の一節もノディエの次の一節から強い影響を受けたと考えるのは自然であろう。⁽⁴⁾ なお『フランシスクス・コルムナ』は『ポリフィルの夢』とその作者と考えられていたフランスチェスコ・コロムナにまつわる物語である。その大事な箇所を引用してみよう。

Je me crois même assez sûr de mon fait pour jurer ici, par les mânes d'Alde l' Ancien (Dieu veuille le tenir entouré d'une éternelle gloire), que si ce drôle d'Apostolo parvient à te fournir un exemplaire de

l' *Hypnerotomachia* sous la bonne date de 1499, la seconde rentrant à peu de chose près dans l'ordre des livres médiocres...⁽⁵⁾

私は確信をもって故アルドの霊にかけて誓うが（どうか永遠の栄光で包まれますように）もしあのアポストロの馬鹿が1499年の正しい日付の一部を君に提供することを成功したら、第二版は大したことがない本の列の近くに属するから・・・

上記の引用文に出てくるアルドはすでに論じたアルド・マヌーツィオを指している。またアポストロは書店主の名前である。

ノディエは非常に短いこの作品の中で『ポリフィルの夢』初版及びその発行年代にこだわっており、上記の引用以外の箇所でもしつこいぐらい言及している。ネルヴァルはノディエのこの一節から『ポリフィルの夢』の1499年発行の初版の重要性を十分に認識しただけではなく、本物を見たいと熱望したはずである。

またすでに引用したネルヴァルの「アンジェリック」に書かれているブランの版画について考えてみよう。プレイヤッド版の编者によるとブランはジョバンニ・ベリーニ Giovanni Bellini を表している。⁽⁶⁾ ベリーニは15世紀に活躍したヴェネツィア派の有名な画家である。『ポリフィルの夢』に挿入された木版画を誰が書いたのかは正確にはわからない。研究者の中にはアンドレア・マンテーニャ Andrea Mantegna（15世紀に活躍したパドヴァ派の有名な画家。ベリーニとマンテーニャは義理の兄弟の間柄である）と考える人々もいる。

ネルヴァルが「アンジェリック」の中で『ポリフィルの夢』1499年版の発行年代と版画家名を明記したことは、その点に強い関心を抱いたことを表していると考えてよいのではないだろうか？

すでに述べたように『ポリフィルの夢』の原典と仏訳では掲載されている版画が全く異なっている。ネルヴァルが興味を持ったのは原典の木版画であって、フランス語訳のそれではない。研究者たちがネルヴァルの「アンジェリック」の重要な記述を無視して『ポリフィルの夢』のフランス語訳だけを研究対象とするのは問題があると指摘してもよいであろう。

またネルヴァルは『火の娘たち』に収録された「シルヴィ」においても『ポリフィルの夢』について言及している。まず7章シャーリ VII . Châalis に次のように書いている。

Les figures des saints et des anges se profilent en rose sur les voûtes peintes d'un bleu tendre, avec des airs d'allégorie païenne qui font songer aux sentimentalités de Pétrarque et au mysticisme fabuleux de Francesco Colonna.⁽⁷⁾

やわらかい青で塗られた丸天井に聖人や天使の像が薔薇色でくっきりと浮かびあがっていて、異教的な寓意のこもった雰囲気はペトラルカの感傷癖やフランチェスコ・コロナナの想像上の神秘主義を思い起こさせる。

ネルヴァルがここでペトラルカ（14世紀イタリアの詩人）とフランチェスコ・コロナを同じ箇所
で言及したことが次の引用のような間違いを引き起こす原因となった。「シルヴィ」第13章オーレ
リー XIII . Aurélie の一節を引用してみよう。

...j' avais entrepris de fixer dans une action poétique les amours du peintre Colonna pour la belle Laura,
que ses parents firent religieuse, et qu' il aima jusqu' à la mort. ⁽⁸⁾

（前略）私は画家コロナが美しいラウラに抱いた恋を詩的なプロットに描くことを企てた。
ラウラの両親はラウラを修道女にしたのだが、彼 [フランチェスコ・コロナ] は死ぬまでラウ
ラを愛した。

ラウラはペトラルカの恋人の名前であり、フランチェスコ・コロナの恋人の名前ではない。前の
引用とこの引用を重ね合わせて考えると、ネルヴァルが単純に作家の恋人の名前を混同してしまっ
たと考えるしかない。

以上のようにネルヴァルが『東方紀行』以外で『ポリフィルの夢』について言及した箇所は多く
はない。その箇所からネルヴァルが『ポリフィルの夢』に造詣が深いとは言い難い。それに比べると
次の章で扱う『東方紀行』では『ポリフィルの夢』を詳しく論じている。

Ⅳ . 『東方紀行』と『ポリフィルの夢』の比較

さてそれではネルヴァルの『東方紀行』序章・第13章「ウェヌスに捧げるミサ」XIII . La messe
de Vénus と『ポリフィルの夢』の比較をしてみよう。この研究で最も参考になるのはマリ＝ジャン
ヌ・デュリー Marie-Jeanne Durry の名著 *Gérard de Nerval et le mythe* 『ネルヴァルの神話』である。
デュリー氏は『ポリフィルの夢』のフランス語訳の中でネルヴァルが参考にした箇所を注の中で紹
介している。特にネルヴァルが引用した部分はイタリック体で記載している。⁽⁹⁾

『ポリフィルの夢』のフランス語訳が刊行された1546年頃のフランス語は中期フランス語 *Moyen
français* と言われている。現在使われているフランス語とは発音・綴字・語形・文法上の違いがあ
る。⁽¹⁰⁾ デュリー氏は上記の著書の中で『ポリフィルの夢』のフランス語訳を忠実に転写している。
しかも下記に記したような手順を踏んでいる。

ネルヴァルが参考にした『ポリフィルの夢』のフランス語訳のページ数を明記している。

（『ポリフィルの夢』フランス語訳は recto（表、右側ページ）だけにページ数が記載されてい
る。verso（裏、左ページ）にはページ数が記載されていない。）

ネルヴァルの『東方紀行』の内容と関係のある箇所をすべて転記している。

ネルヴァルが『ポリフィルの夢』の中で省略した箇所は [] で括っている。

ネルヴァルが『ポリフィルの夢』から忠実に再録した箇所は特にイタリック体で書いている。

しかしこの転写を見るだけでは難解さがはっきりと認識できない。本論文を執筆するに際し、Ⅱの2で述べたようにフランス国立図書館からフランス語訳(1546年版)の複写を取り寄せて、ネルヴァルの『東方紀行』序章・13章及び『ポリフィルの夢』の原典との照合作業に着手した。そこではっきりとわかったことは、『ポリフィルの夢』のフランス語訳の綴りだけではなく、文字までが現代のフランス語とは異なることである。19世紀の作家であるネルヴァルがどのように感じたのかを正確に知ることはできないが、近寄り難い代物であったのではないかと想像する。

さて『東方紀行』序章・13章においてポリフィルらはエーゲ海の島であるキュテラ島(シテール島とも呼ばれている)への巡礼を行う。「ウェヌス・フィジゾエ」(糧をもたらし、豊穡な、生命を作り出すウェヌス)の神殿に到着した後の修道女長と巫女の描写を詳細に検討するとかなり不可解な部分があることが判明した。それはまずネルヴァルの描写を見ると、一番目の巫女、二番目の巫女、七番目の巫女、一番小さな巫女、修道女長の描写は比較的丁寧に描いている。しかし三番目から六番目はまとめて描写されている。

ネルヴァルは『ポリフィルの夢』フランス語訳の76ページ(表)の図版とフランス語訳を見て矛盾に気づいたはずである。フランス語訳に書かれている巫女の数や各々の描写と図版が一致しないのである。ここでフランス語訳の文章と図版を比較してみよう。なお巫女の持ち物で最も大事な部分だけを列挙する。付随する細かい描写は省略する。なお図版は白黒なので、色の描写はあくまで本文に合わせたにすぎない。ここで現代フランス語訳などが非常に役にたった(Ⅱ章の6で紹介した現代フランス語訳の204ページから205ページ)。比較対照を明確にするために巫女の持ち物の修飾語を極力排除したので、多少わかりにくくなってしまった部分もある。

| フランス語訳の文中 | 11名 | 図版 | 10名 |
|-----------|--------|-------|------------|
| 第一の巫女 | 儀典書 | 第一の巫女 | 儀典書 |
| 第二の巫女 | 二枚の布 | 第二の巫女 | 二枚の布と二つの頭巾 |
| 第三の巫女 | 二つの頭巾 | | |
| 第四の巫女 | 聖なる塩入れ | 第三の巫女 | 聖なる塩入れ |
| 第五の巫女 | 刀 | 第四の巫女 | 刀と杯 |
| 第六の巫女 | 聖杯 | 第五の巫女 | 聖杯 |
| 第七の巫女 | 金の僧帽 | 第六の巫女 | 金の僧帽 |
| 小さい巫女 | 蠟燭 | 小さい巫女 | 蠟燭 |
| 修道女院長 | | 修道女院長 | |
| ポリア | | ポリア | |
| ポリフィル | | ポリフィル | |

フランス語訳に掲載されている図版は原典の図版と比べると、違いがはっきりとわかる。フランス語訳の図版では一番右側の人物は帽子らしきものを被り、比較的髪が長い。それに対して原典の一番右側の人物は縞模様の被り物をしており、髪の毛らしきものは見えない。

フランス語訳の本文と図版との間に齟齬が生じた理由は全くわからない。翻訳をする人と図版を描く人が別の人だからなどという単純な答えでよいのかどうかをここで断言することは控えたい。すでに述べたようにネルヴァルは『ポリフィルの夢』を参考にしながら『東方紀行』を書いていた時に、この矛盾に気づいたと考えられる。そこでネルヴァルは苦肉の策として三番目から六番目までの巫女の描写をまとめて書いて誤魔化してしまった。

ここでネルヴァルが1499年発行の原典を一度でも見ていたら、フランス語訳の間違いに気づいたと考えられる。ここで念のために原典ではどうなっているのかを記してみよう。原典はラテン語の辞書やイタリア語の辞書を駆使しても歯が立つような代物ではない。ただし巫女の描写を眺めると、6番目の巫女までしかないことがはっきりとわかる。この訳をする際に現代英語訳とフランス語訳1883年版が役にたった。先にも書いたがフランス語訳1883年版はフランス語訳1546年版を元に訳したのではなく、原典を元にしたことがよくわかる。また難解な単語には丁寧な注が書かれていて、とても役立つ翻訳である。なおⅡの1で紹介した2巻本の2巻目に掲載されている現代イタリア語訳は参考程度には役に立つ。特殊な単語をそのまま使っているので、伊和辞典では手に負えない。

| | |
|-------|--------------|
| 第一の巫女 | 儀典書 |
| 第二の巫女 | 二枚のペールと二つの帽子 |
| 第三の巫女 | 聖なる塩の入った金の壺 |
| 第四の巫女 | 円形の鎌と青銅の壺 |
| 第五の巫女 | 水がめ |
| 第六の巫女 | 金の大神司冠 |
| 小さい巫女 | 蠟燭 |

ここではっきり言えることは、原典の図版とフランス語訳の図版は基本的には違いがない。つまり第二の巫女と第四の巫女が二種類の物を持っていることである。

以上の検討作業により、ネルヴァルが原典を見た可能性はほとんどないと考えてよいという結論に至った。もし見ていたとするならば、『東方紀行』の序・13章の記述はかなり違った文章になったと考えられる。あれほど『火の娘』の「アンジェリック」で『ポリフィルの夢』の原典の重要性を指摘したネルヴァルが『東方紀行』を書く時には『ポリフィルの夢』のフランス語訳を読んで書かざるを得なかった事情があったはずである。

なおネルヴァルは『東方紀行』の中で『ポリフィルの夢』のごく一部を転写したのは事実であるが、実はネルヴァルが独自に考えた単語も使われている。この重要な事実を付け加えないと、ネル

ヴァルはただ単に『ポリフィルの夢』を転写しただけということになってしまう。

それではネルヴァルはどうして『東方紀行』の内容を誤解してしまったのかも考えなくてはならない。19世紀の作家にとっても16世紀のフランス語訳は読みやすい代物ではないと考えてもよいのではないだろうか？すでに述べたようにネルヴァルは『東方紀行』においてノディエの『フランシスクス・コルムナ』に次のように敬意を表している。

Reçois aussi ce souvenir d'un de tes amis inconnus, bon Nodier, belle âme divine, qui les immortalisais en mourant ! Comme toi je croyais en eux, et comme eux à l'amour céleste, dont Polia ranimait la flamme, et dont Polyphile reconstruisait en idée le palais splendide sur les rochers cythérens. ⁽¹¹⁾

君の無名の友のひとりのこの思い出を受け取りたまえ、親しきノディエよ、美しく神々しい魂、死に臨んで彼らを不滅にした。君と同様、私は彼らの中にそして彼らのように天上の愛を信じていた。ポリアはその恋の炎をかき立て、ポリフィルは頭の中でキュテラ島の岩の上の壮大な宮殿を建てたのであった。

この文章にはネルヴァルの原注《Fransiscus Columna, dernière nouvelle de Charles Nodier》(『フランシスクス・コルムナ』シャルル・ノディエの最後の小説)がついている。すでに述べたように『フランシスクス・コルムナ』の前半はこの書物の重要性、後半はフランスチェスコ・コロナナの伝記が書かれている。ネルヴァルはノディエの小説により、『ポリフィルの夢』を誤解したわけではない。

ネルヴァルは『ポリフィルの夢』の原典を見てはいないと推測する。フランス語訳は確かに参照してはいるが、そんなに読みやすい作品ではないので必要な部分だけを参照したと考えられる。全編の図版をもし見たとするならば、大きな誤解はしなかったはずである。

V. 結びに代えて

ネルヴァルは『ポリフィルの夢』の原典ではなく、フランス語訳1546年版を参考にして『東方紀行』を書いたことはほぼ間違いはない。原典とフランス語訳との間に違いがあり、ネルヴァルがフランス語訳を踏襲してかなり忠実に作品内に転写したことでそのことは証明されている。フランス語訳の間違いまで忠実に再現したことが決定的な証拠となる。

今までの研究でネルヴァルの『東方紀行』と『ポリフィルの夢』の原典を比較しようとした人はいない。フランスで発行された研究書における『ポリフィルの夢』及び日本で発行された翻訳に掲載された図版はすべて『ポリフィルの夢』のフランス語訳のそれである。多少なりとも原典を参照しようという気持ちにすらならなかったのが不思議である。

ネルヴァルは原典に対して強い関心を抱いていた。しかし実際はフランス語訳を参照するしかなかった。このフランス語訳すら19世紀のフランス語とは文字・綴りも異なり、かなり近寄り難い書

物であることは間違いない。そこにシャルル・ノディエの『フランシスクス・コルムナ』が現れてそれに大きな影響を受けてしまった。

本論文におけるネルヴァルのテキスト、『ポリフィルの夢』の原典、フランス語訳の照合作業を通じて痛感することは、たとえ電子テキストや複写であっても入手して作業をして初めてわかることがあるという単純な事実である。

序にも書いたように近年はネルヴァル研究にとって重要な文献が電子テキストや廉価版、CD-ROMのような形で入手し易くなった。現物が持つ重要性を否定しようとは思わない。しかし今日では書物の表表紙、裏表紙から本文に至るまで写真で撮影し、また縮尺まで掲載しているサイトすらある。これらを活用すれば、ネルヴァル研究に新たな光を与えることができると考えている。

注

- (1) アルド版に関しては雪嶋宏一「学術出版の祖アルド・マヌーツィオ」『早稲田大学図書館紀要』52号（2005年）pp. 133及び「わが国におけるアルド版の調査研究」『早稲田大学図書館紀要』54号（2007年）pp. 154を参考にした。早稲田大学図書館のサイトでダウンロード可能である。アルド印刷所はアルド・マヌーツィオを含めて3代にわたって活動した。
- (2) 澁澤龍彦『胡桃の中の世界』河出書房新社、河出文庫、昭和59年、pp. 75-97。澁澤氏はネルヴァルの作品の翻訳「緑色の怪物」を発表したことがある（G・アポリネール他、青柳瑞穂・澁澤龍彦訳『怪奇小説傑作集4 フランス編』東京創元社、創元推理文庫、2006年新版発行に収録）。
- (3) Gérard de Nerval, *Œuvres complètes*, tome III, édition publiée sous la direction de Jean Guillaume et de Claude Pichois avec, pour ce volume, la collaboration de Jacques Bony, Michel Brix, Lieven d' Hulst, Vincenette Pichois, Jean-Luc Steinmetz, Jean Ziegler et le concours d' Antonia Fonyi, Paris, Gallimard, coll. «Bibliothèque de la Pléiade» 1993, p.530. 以下ネルヴァルのこの巻をPL .IIIと略す。ネルヴァルの『火の娘たち』（本論文で引用をした「アンジェリック」や「シルヴィ」を収録している作品集）を訳す際に『ネルヴァル全集Ⅱ』筑摩書房、1975年に収録された入沢康夫訳『火の娘たち』、『ネルヴァル全集Ⅴ 土地の精霊』筑摩書房、1997年に収録された中村真一郎・入沢康夫訳『火の娘たち』、ジェラルド・ド・ネルヴァル著、中村真一郎・入沢康夫訳『火の娘たち』筑摩書房、ちくま文庫、2003年を参考にした。
- (4) Gérard de Nerval, *Œuvres complètes*, tome II, édition publiée sous la direction de Jean Guillaume et de Claude Pichois avec, pour ce volume, la collaboration de Jacques Bony, Max Milner et Jean Ziegler et avec le concours de Michel Brix et d' Antonia Fonyi, Paris, Gallimard, coll. «Bibliothèque de la Pléiade» 1984, p.237. 以下この巻をPL .IIと略す。Gérard de Nerval, *Voyage en Orient*, volume I, présentation et notes par Jacques Huré, Paris, Imprimerie Nationale, 1997の注も参考にした。『ネルヴァル全集Ⅱ』筑摩書房、1975年に収録された稻生永訳『東方紀行』ある友への序章・東方へ（抄）、G・ド・ネルヴァル著、篠田知和基訳『東方の旅上』（世界幻想文学大系 第31巻A）国書刊行会、昭和59年、『ネルヴァル全集Ⅲ 東方の幻』筑摩書房、1998年に収録された野崎歓・橋本綱訳『東方紀行』を参考にした。
- (5) Charles Nodier, *Contes*, sommaire biographique, introduction, notices, notes, bibliographie et appendice critique par Pierre-Georges Castex, Paris, Éditions Garnier, 1961, p.884. Charles Nodier, *Franciscus Columna*, Paris,

Galleries des Beaux-Arts, 1844の電子テキストをフランス国立図書館 Gallica からダウンロードして参照した。また Charles Nodier, *Franciscus Columna*, Préface de Patrick Mauriès, Paris, Gallimard (Le Promeneur), coll. «Le Cabinet des lettrés», 2004も参考にした。なおノディエの『フランシスクス・コルムナ』を訳す際、シャルル・ノディエ著、篠田知和基訳『炉辺夜話集』牧神社、1975年を参考にした。

- (6) PL .III , p .1209 .
- (7) PL .III , p 552 .
- (8) PL .III , p 565 .
- (9) Marie-Jeanne Durry, *Gérard de Nerval et le mythe*, Paris, Flammarion, 1956, pp.189-199. マリ = ジャンヌ・デュリー著、篠田知和基訳『ネルヴァルの神話』思潮社、1971年を参考にした。
- (10) 伊吹武彦 他編『仏和大辞典』白水社、1981年、pp .16 17に記載されている中期フランス語 *Moyen français* の項目を参考にした。また山田秀男『フランス語史』(増補改訂版)、駿河台出版社、2003年も参考にした。
- (11) PL .II , p 237 .

付記：本論文は平成21年度科学研究費補助金基盤研究(C)「ネルヴァルにおける視覚芸術と文学作品の関係」(課題番号 21520359)の研究成果の一部を公表したものである。

(ませ れいこ：英語メディア学科 教授)